

平成30年4月NHK中央放送番組審議会

4月のNHK中央放送番組審議会は、16日(月)、NHK放送センターにおいて、13人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、美と若さの新常識～カラダのヒミツ～「発見！“痩せる脂肪”の極意」について説明があり、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、5月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

(出席委員)

委員長	渡部 潤一 (国立天文台副台長)
副委員長	大島 まり (東京大学大学院情報学環／生産技術研究所教授)
委員	石戸奈々子 (NPO法人CANVAS理事長)
	今井 忠 (NPO法人東京都自閉症協会理事長)
	大川 順子 (日本航空(株)取締役副会長)
	佐野真理子 (主婦連合会参与)
	立野 純二 (朝日新聞社論説主幹代理)
	田中 隆之 (読売新聞東京本社執行役員論説委員長)
	西原浩一郎 (全日本金属産業労働組合協議会顧問)
	花岡 伸和 (一般社団法人日本パラ陸上競技連盟副理事長)
	比嘉 政浩 (全国農業協同組合中央会専務理事)
	福井 烈 (公益財団法人日本テニス協会専務理事)
	藤村 厚夫 (スマートニュース(株)執行役員メディア事業開発担当)

(主な発言)

<美と若さの新常識～カラダのヒミツ～「発見！“痩せる脂肪”の極意」

(BSプレミアム 4月3日(火)放送) について>

- ダイエットを扱う番組は、短期的に何キロ減量できるといった、視聴者に過度な期待を持たせるようなものが多い中で、健康的な番組だと思った。寒冷刺激や食材への配慮など日常生活の中で地道に積み重ねることで体質改善することが紹介されており、参考にしたいと思った視聴者も少なくないだろう。一方で、褐色脂肪の発見がどれだけ重要で、私たちにとっても素晴らしいことなのかがあまり伝わって

こなかった。特に女性は、「美と若さ」というテーマに強烈なインパクトを与えてくれるものを求めているところがあるので、劇的な効果を期待した視聴者にはやや物足りない内容だったのではないか。

- ダイエットなどに関心の高い視聴者の期待に応える健康番組だと思った。インパクトのある情報はそれほどなかったが、実験やゲストの質問に答える形で専門家が解説することで、最新の医学研究の内容を正しく伝えており、NHKらしい医療・健康番組だったのではないか。“痩せる”効果を持つ、褐色脂肪を増やすための寒冷刺激が紹介された一方で、過度に体を冷やすことへの注意も促しており、過度なダイエットにつながらないようにバランスの取れた伝え方だった。また、科学的に実証された事実以外は、専門家が慎重にコメントしており、番組内容の信頼性を高めていた。一方で、女性ゲストへのアンケートの中で「胸元の開いた服が好きか」という表現は適切だったのだろうかという疑問に思った。また、料理コーナーで食材を紹介する際に司会者が「どうせ飲むなら緑茶を選ぼう」とコメントしたが、視聴者の消費行動に影響を及ぼしかねない印象を受けたので、公共放送として、慎重に表現すべきではないかと感じた。

(NHK側)

「胸元の開いた服が好きか」というアンケートは女性の制作者たちから出てきた案だったが、もう少し表現を工夫してもよかったかもしれない。司会者が「どうせ飲むなら緑茶を選ぼう」とコメントした場面は、テロップなどは入れずに過度な宣伝に繋がらないように配慮した。

- 美容、ダイエット、健康について情報があふれているなか、BSプレミアムという多彩な番組を放送するチャンネルで、NHKが専門家の解説を交えて取り上げることはとても価値のあることだと思う。この番組を見て多くの人が「学びが多く、生活に応用できるよい番組」と感じると思った。一方で審議会では、視聴者から賛否両論が寄せられるような事柄をNHKとしてどう取り上げるべきかなどについて議論したほうがよいのではないか。
- 司会者にお笑い芸人を起用したバラエティー演出の番組が多いように感じる。この番組の主なターゲットである女性に見てもらうために必要ならば仕方がないが、スタジオセットが派手で落ち着いて見られなかった。
- 日常生活で取り組める提案がなされており、参考になったが、3種類ある脂肪細胞

のうち、普通の脂肪は美容によくないというイメージを視聴者に与えたのではないかと疑問に思った。“痩せる”効果を持つ褐色脂肪は60歳を過ぎるとなくなってしまふとのことだったが、そんなによいものならばなぜなくなるのか説明がほしかった。料理コーナーで、特定の食材を食べると褐色脂肪が増えると紹介していたが、痩せたいと思った視聴者が偏った食材ばかり摂取する可能性があるのでは、まずはバランスのよい食事が大切だともう少しはっきり伝えるべきだったと思う。番組の最後に「どうせ飲むなら緑茶を選ぼう」と司会者がコメントし、特定保険用食品のペットボトルのお茶をすすめるような印象を受けたが、カテキンの取り過ぎはよくないという話も聞くので、やや違和感を覚えた。また、痩せる必要がないのに痩せたいと思っている人も多いので、そういう人に向けたメッセージもあればなおよかったと思う。

(NHK側)

痩せる必要がないのに痩せたがっている人も多いのではないかとこの指摘についてだが、今回の番組はダイエットというよりも体質改善を意識して制作した。「ダイエット」を入り口として多くの視聴者に興味を持ってもらい、褐色脂肪が増えると基礎体温が上がり、免疫力もアップし、いろいろな相乗効果で痩せることにもつながると紹介をした。

今回お勧めした食品は昔から体にいいと言われているもので、基礎体温を上げ、代謝を上げるものばかりだが、今後も特定のものを宣伝しているような印象を視聴者に与えないように配慮したい。

- 同じものを食べても太る人と太らない人がいるのは鍵を握る褐色脂肪の数に個人差があるからだということなどが紹介され、大変興味深く見た。30代以上の女性をメインターゲットとして、番組が制作されているとのことだが、「美と若さ」といえば女性で、痩せたがっているのも女性であるというのはやや決めつけすぎではないかと感じた。男性が見ても勉強になると思うので、ゲストが女性だけだったのは疑問に思った。
- 番組を見る前から“痩せる脂肪”というタイトルに興味を引かれた。美容や健康に関して情報があふれている中、専門家の解説を交えて、体の仕組みを科学的に分析し、正しい知識が得られる番組は大変貴重だと思う。この番組では、これをしなければいけないという押しつけがないのがとてもよかった。メインの視聴ターゲットを女性に絞った番組だと聞いて納得したが、ゲストが女性ばかりだったので、男性もいればまた違った角度で番組を見られるのではないかと。また、スポーツ選手の

食に関するノウハウなどを取り上げることで、視聴者の健康につながるよいヒントになるのではないかと思った。

- この番組を見て、改めてテレビはおもしろいと思った。おもしろいということは、それだけ影響力があるということだと思う。若い女性にも見てもらえるように、誰もが興味のあるダイエットをテーマにして、専門家の解説を交えて科学的にも正しい知識を楽しく紹介するという番組の方向性はいいと思う。司会は人気のあるお笑い芸人なので若者の目にも止まるのではないか。ただ、番組を見て、痩せることがよいことだという短絡的なメッセージだけが伝わってしまうのではないかとやや心配になった。10代、20代の女性たちはとにかく細くて痩せていることがいいと思っっているように見えるので、自分自身のありのままの体もすばらしいのだというメッセージが含まれていれば番組がもっとよいものになったのではないかと思った。
- 視聴者が楽しみながら正しい知識を身につけることができる番組だと思った。寒冷刺激は専門家の指導が必要であることや、あくまでも人ではなくマウスの実験では効果があったことをきちんと伝えており、視聴者の過度な期待に繋がらないようにしっかり抑制して解説していた。今後もバランスの取れた伝え方をしてほしい。
- 健康番組と料理番組をうまく組み合わせた番組だと思ったが、タイトルや内容から個人的には興味を持って見るのが難しかった。科学的に実証されていない仮説を元にした料理を紹介するのはどうなのか、疑問に思った。

(NHK側)

寒冷刺激によって褐色脂肪の働きを活性化させるだけでなく、増やせるかどうかについては、マウスの実験データしかなく、人で確認されているわけではないので仮説として扱った。仮説であっても、勧める食材やそれらをバランス良く食べることは色々な視点や研究から良いといわれるものなので、伝えるべきではないかという思いで紹介した。

痩せることがよいことであるというメッセージになりすぎるのはよくないという指摘があったが、それについては、番組のシリーズ全体で取り組んでいきたい。例えば第3回は「骨」について、過剰なダイエットは骨に影響がでることと、骨が痩せると顔のしわが増えるという最新研究を伝える予定である。

- 健康や美容に関する番組は、問題を指摘するばかりでどうしたらよいのかは最後の5分位で紹介するのが常だが、今回の番組では、仮説に基づくものではあったが、こうしたらよいという提案や知恵がたっぷりと紹介されたのでよかった。スタジオセットがとても派手で落ち着いて見ることができなかつたのは残念だった。
- トリップチャンネルを刺激して褐色脂肪を増やす食材としてショウガ、ニンニクなどが紹介され、勉強になった。司会者がお笑い芸人だったが、バラエティー番組のように騒がしい演出がそれほどなかつたのはよかった。科学的に正しい知識を視聴者に伝えるという点は難しかったのではないかと思うが、バランスよく取り上げていたのでないか。30代以上の女性をメインのターゲットとしているとのことだが、それ以外の人たちにも興味を持ってもらえる内容だと思う。男性でもこういった内容に興味を持つ人はいると思うので、もう少し番組の視聴ターゲットを広げてもよいのではないかと思った。
- 2012年の論文を基にした内容だったが、論文が発表されてから学会や社会の常識になるまでにはかなりの時間がかかるはずなので、内容については本当にテレビで放送しても大丈夫なのかという不安がどうしても残った。3人の専門家が解説しており、バランスは取っていたと思うが、今後も検証を十分に行った上で番組を制作してほしい。

(NHK側)

脂肪は悪いものだけでなく人間の体を保持するのに大切なものであることや、緑茶のカテキンは体によいが過剰に摂取すると何らかの悪影響があるかもしれないといった二面性は医学や医療の分野において重要なことだと制作側も認識している。番組の限られた時間の中でも視聴者により正確な情報を伝えられるように今後も心がけたい。

(NHK側)

30代女性を意識したスタジオセットにしているが、その中でもNHKの個性を出していけるようなものを引き続き模索していきたい。

(NHK側)

お笑い芸人を起用することに対する指摘をよくいただく。

できるだけ多くの方に分かりやすく、おもしろい番組を見ていただきたいと思うあまり、また、30代、40代にテレビを見てもらえないという現状を抜け出したいと思うあまり、結果的にお笑い芸人を起用し、派手なスタジオセットの番組が増えてしまっているということもあるかもしれない。4月から始まった「チョコちゃんに叱られる！」は昨年度から開発番組として視聴者の意見を聞きながら試行錯誤して進めてきた番組だが、今後もさまざまな開発番組についてNHKらしい演出の番組とはどういうものかを考え、視聴者の意見も聞きながら、期待に応えられる番組を制作していきたい。

(NHK側)

放送する内容についてはNHKとして自信を持って、世の中にきちんと伝えるべきものだというので放送している。お笑い芸人を起用しすぎではないかというご意見があることは承知しているが、若者たちにとっては、番組が楽しく明るく笑えるというのは大前提で、その次に中身が何かと考える人たちもいる。これからも試行錯誤しながらNHKでないといけないという演出にたどり着きたいと思っているので、長い目で見ていただければありがたい。

(NHK側)

1つの番組を10～70代の男女全員に見てもらうことが理想だが、テレビのチャンネル数も多く多彩な番組がある中で、現実的には難しい。どういった年代の人に見てもらいたいか事前に目標を定めて番組を制作し、その結果をきちんと調査・分析し、共有することで次の番組づくりに生かそうとしている。セットについてはすべての番組ではないが、新しいレギュラー番組でスタジオセットを作る際に、番組を見てほしい年代の人たちにアンケートを取ったり、実際に来てもらい、こういう内容の番組だったらどんなセットがよいか、ということヒアリングした上で作るなど、ターゲットとしている視聴者の意向も踏まえて制作している。

<放送番組一般について>

- 4月7日(土)のNHKスペシャル「#失踪 若者行方不明3万人」を見た。つかみどころのない社会問題の実態に迫った番組で大変見応えがあった。9人が亡くなった座間の殺人事件について、犯人を残忍だと思うとともに、どうして女性たちは見知らぬ男の家に行ったのだろうかという疑問を多くの人を持ったと思う。インターネットを介し、知らない若者同士が知り合い、犯罪に巻き込まれてしまうことは何年も前から続いていると思うが、実際に失踪している若者の声を直接聞いている映像はそんなに見たことがなかったので、そこにこだわり、SNSを介して失踪している若者たちに直接取材していたことに驚かされた。取材者の立場に立つと、背後で大変心配しているだろう親たちのことに思いをはせて、若者にどこからきたのか聞き出したり、家に帰るように促したりしてしまうだろうと思う。そういうことをし始めるとおそらく取材を続けられないので、彼らと何らかの距離を置かねばならず、難しい取材だったと思う。取材過程を見せるという演出もあったかもしれない。

(NHK側)

座間の事件をきっかけに、若者たちには大人と違う世界が広がっているのかもしれないという思いで取材を始めた。SNS上で彼らは裏アカウントを使い、匿名で生きているが、NHKの公式アカウントを使って取材を申し込むと意外なことにちゃんと反応してくれた。そのプロセスの一部は映像化したつもりだ。事実確認などの課題もあるので、今後こういった取材が必要な場面が増えてくることも意識し、経験を積み重ね、実績を積み上げたいと思う。

- NHKスペシャル「#失踪 若者行方不明3万人」を見て、若者が置かれている環境をかいま見ることができた。番組では、SNSを介して失踪した若者に直接取材し、その思いを取り上げており、とても衝撃を受けた。母親が干渉しすぎる、家庭内に居場所がない、など家庭における問題は取り上げられていたが、学校での状況や、友人関係はどうなのか、また、SNSのサービスを提供しているIT事業者や、行政機関の人たちはどう思っているのかについても知りたかった。根がとても深い問題かと思うので、これからも継続的に報道してほしい。
- 4月8日(日)のNHKスペシャル 人類誕生 第1集「こうしてヒトが生まれた」を見た。新しい発見があって、子どもから大人まで楽しみながら見ることがで

き、勉強になった。次のシリーズも楽しみにしている。

- NHKスペシャル 人類誕生 第1集「こうしてヒトが生まれた」を見た。日本人の祖先は北京原人から来ているのかと思っていたが、まったく違うことがよく分かり大変勉強になった。ホモ・サピエンスがどういうステップで今日まで来たのか、高精細のCG技術を駆使した臨場感のある映像で歴史を振り返っており、ロマンがあった。なぜホモ・サピエンスが生き残ったのかという過程において、家族を守るための進化であったことなどが紹介され、今に生きる私たちにも示唆を与えているようでよかった。
- 4月15日(日)のNHKスペシャル キム・ジョンウンの野望 第1集「暴君か戦略家か 禁断の実像」は、今後、南北首脳会談や米朝首脳会談を控える中で、時機を捉えた放送だったと思う。NHKの取材力を生かし北朝鮮の戦略、内情に迫っており、特に日本の安全保障問題に直結する極めて重大な課題がある中で北朝鮮の今を理解するのに説得力のある番組だった。第2集、第3集にも大いに期待している。
- 3月22日(木)の放送記念日特集「フェイクニュースとどう向き合うか～“事実”をめぐる闘い～」(総合 後 10:00～10:59)を見た。政治的プロパガンダ、愉快犯、人々の善意、または単なるビジネスとして、デマがフェイクニュースとして拡散してしまう実態を紹介していた。また、フェイクニュースが広まる背景としてマスメディアに対する不信感があることについても触れており、フェイクニュースという切り口でメディアをとりまくさまざまな問題が議論されていた。情報プラットフォームの社会的責任を問う法案が可決されたドイツの例や、NHKのソーシャル・リスニング・チームの事実確認を行う様子などが紹介されたが、ファクトかフェイクかの見極めの難しさがよくわかった。最後に大越健介キャスターがメディアはファクトに対し謙虚であるべきであり、多面的なアプローチをすることで事実の核心に近づくことができるといったコメントをして、番組が終了したことで、このような姿勢を持ち続けるNHKならば信頼が持てると感じた。
- 3月24日(土)の「アナウンサーのディープな夜」(総合 後 11:25～25日(日)前0:00)を見た。ニュース原稿を読んだり、番組で見る印象と違ったアナウンサーの姿を見ると今までより身近に感じられ、視聴者との距離が縮まったように感じられた。NHKは多くの視聴者に見てもらえる番組作りを意識していると思うが、こういった遊び心のある番組が時々あっていいのではないかと思った。

- 3月28日(水)の「あさイチ」での「沖縄 母親たちが見た基地」についての取り上げ方には疑問を感じた。沖縄県の普天間の保育園の屋根から米軍ヘリの部品が見つかったが、これについてアメリカ軍は「飛行中に落下した可能性は低い」という認識を示し、真相は今も明らかになっていない。一方で、同じ時期に大型ヘリコプターから約8キロの窓が小学校の校庭に落下する事故があったが、こちらの方が落ちてきたものはるかに重く、深刻で、アメリカ軍も認めているにも関わらず取り上げられなかった。不安を感じている普天間の小学校の子どもたちや父母の声に寄り添う番組を作れたはずだと思う。社会的な問題を取り上げる以上はきちんとバランスをとって伝えてほしい。

- 4月11日(水)、12日(木)のハートネットTV シリーズ熊本地震から2年 (1)「笑顔の裏にあるものは」、(2)「孤立させないために」を見た。このシリーズは復興がどこまで進んでいるのか被災地の方々に寄り添って伝えていてよかった。東日本大震災についても同様だが、光があたって復興の進み具合が広く知られているところと、そうでないところにはかなりの差があるように思う。熊本地震は東日本大震災に比べると規模が小さく、原発事故もないので、もっと早く復興が進むと思っていたのだが、今回の番組を見てそうではないことがわかった。一方で、国や自治体の担当者がどう思っているのかも取り上げるとなよかった。今後も被災者に寄り添って、被災地の現状や復興の課題を継続的に取材し伝えてほしい。

- 3月29日(木)のBS1スペシャル「韓国・チキン屋とピョンチャンの17日間」を見た。懸命に頑張っているチキン屋の店主や店に集う人々の声を通し、韓国社会が直面している課題や問題を極めて分かりやすく、浮き彫りにしていた。韓国の人々のリアルな姿や意識を伝えるドキュメンタリー番組だったと思う。番組が長く、途中でグルメコーナーがあったが、必要ないのではないかと思った。

- 2月の審議会でも視聴番組にもなった「シリーズ 欲望の経済史〜ルールが変わる時〜」が4月8日(日)にBS1スペシャル「欲望の経済史〜ルールが変わる時〜特別編」(BS1 後 10:00~10:50、11:00~11:49)として放送された。毎週見るのは大変だが、1つの番組に編集して放送されたことで全体を通して見ることができ大変よかった。

- 「梅沢富美男と東野幸治のまんぷく農家メシ!」と「うまいッ!」は、正面から農業問題を扱っているわけではないが、誰もが関心のある食を入り口に、農家のたくましさや抱えている課題の両方が垣間見えて大変すばらしい番組だ。また、3月13日(火)に再放送された、六角精児の呑(の)み鉄本線・日本旅「秋・三江線を

呑(の)む!」(BSプレミアム 後 11:45～14日(水)前 0:44)や「中井精也のてつたび!」などの鉄道番組も、農村地域の暮らしがかいま見えて大変よい。

- ニュースで国会での話題を取り上げる際に以前は「与野党の攻防が続きます」というコメントがよく使われていた印象があったが、最近あまり耳にしなくなった。視聴者は単なる政治の傍観者なのかといつも疑問に思っていたので、よかった。一連の加計学園の問題などについては、しっかり伝えていてNHKの取材や報道姿勢を評価したい。これからも期待している。

(NHK側)

ニュースで国会の話題を取り上げる際には「成り行きが注目されます」というような決まり文句はなるべく使わないように指導しており、今の状況に合わせて今後を展望するような表現を使うようにしている。

- 2004年のアテネパラリンピックの放送時間は、オリンピックの40分の1だったと聞き、当時はその少なさに怒りさえ覚えた。2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まったこともあってか、パラリンピックの放送時間は以前に比べれば長くなったと思うが、それでもまだ足りないと感じていることがある。ピョンチャンパラリンピックの放送を見て、オリンピックと同じような放送になっていることに違和感を覚えた。もちろん選手たちの高いパフォーマンスを見てもらうことも重要ではあるが、パラリンピックはオリンピックと違い、障害がある人がスポーツをして、自分のパフォーマンスを高めようとするそのものに価値があり、それがひいては感動につながると考えている。だからこそ、結果至上主義的な放送ではなく、なぜ選手がその場に立ち、競技をし、結果を残したのかが伝わるように、サイドストーリーにも光を当てることが重要だと思う。NHKが福祉番組でこれまで培ってきたノウハウも生かしながら、あくまでもスポーツ報道としてそのような放送を実現してもらいたい。パラリンピックを見たい人はオリンピックに比べれば少ないかもしれないが、公共放送として取り組んでいただければと思う。

(NHK側)

オリンピックについて、競技中継とその結果だけを見ると結果至上主義になるのは仕方がないことかもしれないので、東京オリンピックに向けては、今まで以上にさまざまな関連番組を放送し、違う価値も発信していきたいと考えている。パラリンピックについてもまったく同じ考え方だ。東京大会

はゴールでなく、あくまでも通過地点であり、パラスポーツをきっかけに共生社会への理解を深め、みんなが暮らしやすい社会にしたいという意味も込めて、放送していきたい。

(NHK側)

ピョンチャンパラリンピックでは「ハートネットTV」のチームが取材した内容を総合テレビの「パラリンピックタイム」の特集コーナーで放送した。今後も番組の枠にとらわれず、視聴者に伝えていきたい。

- 大谷翔平選手の活躍によって、普段見ない人もMLBに注目していると思う。日本選手の活躍はそのスポーツに興味を持つ上で不可欠なことかもしれないが、その活躍をきっかけに、日本選手がいるいないにかかわらず、スポーツの本当の楽しさを分かってもらえるのがNHKのスポーツ中継だと思う。世界のトップ選手の究極の熱戦を放送することで、スポーツのすばらしさが視聴者にも伝わり、スポーツで日本を元気にできるのではないか。東京オリンピック・パラリンピックに向けて引き続き盛り上げてほしい。
- NHKが地上波で新人のAIアナウンサー「ニュースのヨミ子」を導入したことに大変驚いた。視聴者がみんなで育てるアナウンサーという設定はおもしろく、これからアナウンサーとしてどのように成長していくのか、社会的にどのように受け入れられるのかを興味深く見ていきたいと思った。AI導入にあたってはアナウンサーの働き方改革にもつながると聞いているので、その点も期待したい。
- NHKには、全国津々浦々にすばらしい番組を届けることと合わせて、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、新しい技術を開発する役割も期待されていると思う。例えば自分が見たい番組、見るべき番組が自動的におすすめされたり、スポーツ中継において、ドローンなどでさまざまな角度から撮影することで、視聴者が自分でアングルを調整し観戦できたり、AIを駆使して人間だけでは絶対に処理できなかったデータや情報に基づいた番組が作られるなど、新しい番組のあり方も考えてほしい。一方で技術が発展すると、不安に思う人たちもいるので、番組を通して、もしくは番組にAI技術を使うことによって、AIと社会や暮らし、未来に関しても視聴者に明るい展望を今後も示していただきたい。

(NHK側)

アナウンス室としてもAIアナウンサーの導入について前

向きに考えている。人を取材して伝えることは人にしかできないと思っているので、AIを導入しても価値の変わらないものだと思う。一方で働き方をきちんと改善していくことも考えていきたい。

- 「NHK NEWS WEB」の中に、時系列でわかる「シリアに軍事攻撃」、時系列でわかる「震災7年」などの記事の再構成が掲載された。ニュースで見ていると何となく理解したような気になるが、改めて時系列で整理すると見えてくるものがあり、ウェブならではのニュースの伝え方の1つだと思い感心した。NEWS WEBの記事は1週間ほどで見られなくなってしまうが、長い時間掲載されても堪えうるようなニュースの見せ方をこれからも模索してもらいたい。

NHK編成局
番組審議会事務局